



部門賞 ローカルアクション部門

選考委員からのコメント



山本 由加氏

SDGsの達成は「当事者コミュニティがしなやかに生み出される社会」に行き着くように思います。サクラノキテラスを入り口に病気以前の人でも「健康」について情報を得られる、ゆるやかに楽しく明るいコミュニティが形成されていることに可能性を感じます。



阪口 瀬理奈氏

医療と市民の距離を、自然な形で近づける素晴らしい取組です。マルシェの形にすることで出展者、ボランティアの運営支援、来場者..様々な人が無理なく関わる場になっており、それが本取組に広がりを持たせています。

SDGsインパクト



【ターゲット 3.4】

非感染性疾患による若年層の死亡率を減らし、心の健康と福祉を推進する

社会から孤立し、心身の健康から遠のいている人々を、社会とつなぐ役割を担う取組。参加者の中には、再び学校に通えるようになった方もおり、この取組の社会性の高さも感じられる。



【ターゲット 10.2】

年齢、性別、障害、人権、民族、出自、宗教、経済的地位やその他の状況にかかわらず、すべての人々に社会的・経済的・政治的に参画できる力を与え、その参画を推進する

未就学児童から高齢者まで、年代等を問わず、すべての人々が参加できる。医療従事者との接点をもつ場もあり、ここを窓口として、社会とつながりをもつ機会を提供している。



【ターゲット 11.7】

女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する

マルシェや演奏会、趣味の発表など、誰でも参加できる空間を提供している。医療機関が主軸となって公共スペースを生み出していることで、将来的な可能性も広がりやすい。

サクラノキテラスでつながる、誰もが取り残されない健康を！

大石内科循環器科医院 × 株式会社やまうち薬局 × スポーツクラブセイシン

1.取組概要
大石内科循環器科医院の中庭を「サクラノキテラス」と名付け、マルシェやワークショップなど様々な出店者やお客様が集まるイベントを毎月1回定期的に開催しています。(株)やまうち薬局・スポーツクラブセイシンではサクラノキテラス開催時に、講師として健康・食事・福祉などをテーマに参加型講座を提供しています。全ての人にとって健康や医療・福祉が身近な存在であり、社会とつながるコミュニティの場所として継続的に開催しています。

2.該当するSDGs目標
3 持続可能な健康と福祉
医療が身近な存在として自ら地域に目を向け、健康に欠かせない人と人・地域がつながる場所を提供しています。社会的孤立を防ぐことで、すべての人が健康で、幸せに暮らせる地域づくりを目指しています。

その他関連するSDGs目標
11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達成しよう

3.目標に対する達成状況、実績
来場者数・店舗数・売上等の増加だけを目指しているわけではなく、継続的に未就学児童から後期高齢者まで多世代・様々な方が立ち寄り交わる場所を目指しています。2020年に3人でスタートし、2024年7月には30組以上が出店者・演奏として参加、多くの方が参加・来場するコミュニティへ成長。後期高齢者の趣味の発表や、学校へ通えない方が再び通えるようになる等の効果も表れています。

4.取組イメージ
2020年小さな屋台をつくり、活動を軒下からスタートしました。(右上) やがて活動に共感してくれる人が現れ、整体やお茶を振舞う人など2021年に現在の中庭で開催するスタイルにまで仲間が増えました。マルシェや演奏など子どもから大人まで楽しめる場所、人とつながる場所に。(右中・右下) 3者が企画する健康ワークショップでは季節に合わせた健康に関するお話や体験を提供し、医療従事者や関係者と気軽に話せる時間を設けています。(左下)



5.取組が開始されたきっかけと展開
医者として医療活動だけでは、人の病気の根源を解決できないと感じていました。病気の原因を考えると社会から孤立し、自分の存在や生きがいを見失った人ほど心身の健康から遠のいています。その解決のため私は妻・友人の3人で軒先から健康屋台を始め、様々な人と話し続けました。人と人が、そして社会とつながっていると少しでも実感してもらい、そして医療が誰にでも身近でありたいという思いからでした。活動を続ける中で共感し一緒に活動してくれる人が現れ、仲間が増えました。やまうち薬局・スポーツクラブセイシンが加わることで、健康に関する領域・専門分野を活かしたワークショップや体験などの活動が大きく広がりました。3者で毎月会議を行い、心と体の健康につながるコンテンツを企画し毎月開催しています。軒先から始めた小さな活動は、サクラノキテラスという大きなコミュニティとして多くの方が関わる取り組みになりました。

6.応募した取組の今後の計画・展開
この活動は拠点を中心とした輪が広がるだけではありません。サクラノキテラスで出会った人達がそれをきっかけに、他の場所でも互いの取組みへ参加したり協力したりと人のつながりが地域へ広がり波及しています。またイベントなどにも出店し、他の場所でも健康屋台を開き接点を増やしています。医師・薬剤師・管理栄養士の3者が聞き手として、訪れる様々な人の話を聞きました。健康について身近に感じて貰いながら、人とつながるきっかけ作りの窓口を広げる活動を今後も展開していきます。2024あおばフェスにて3者が共同出店 (右)



7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
自分の特技や得意なことが、誰かにとっては役立ちチカラになる事があります。どんな人でも、必ず地域コミュニティに役立つ何かを持っています。最初は1人で始めたとしても、活動を続けていくと興味を持ってくれる人が現れます。私達も当初はほんの数人しかお客さんが来ない時期もありました。諦めずに定期的に継続して開催することで。次に主催者とお客様という関係だけでなく、興味を持ってくれた方や自分も何かしたいという方を仲間へ巻き込んでいきます。参加者の中には自主的にチラシを配ってくれる方や、会場準備を手伝ってくれる方がなどが現れました。そして本来なら接点が無い人同士がつながったり、新たな活動が始まりました。また、それぞれの資格や強みを活かしたコンテンツを作ります。私達では管理栄養士によるタンパク質がとれるお弁当作り、健康運動指導士による疲れにくい歩き方教室など企画して開催しました。職業や資格以外でも、新たに出会ったり加わったりする人の「私はこんな事ができる」を活かしたコンテンツ作りがマンネリ化を防ぎ継続的な開催の手助けとなるはず。そして何より欠かせないのはこうした活動がSDGs目標達成のため、社会貢献のためだからという目的意識だけでなく、主催する自分たちが一番楽しむという姿勢です。活動を継続していくためには、楽しむことが欠かせません。そして楽しそうな人や活動の周りには、自然と人は集まってきます。

